

アキカラマツ

Thalictrum minus var. hypoleucum

キンポウゲ科

名前の由来

花の形がカラマツの葉に似ており、秋に開花することから名付けられた。漢字名：秋唐松

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ



アキカラマツ

形態的特徴

高さ50~120cmになり、上方で多く枝分かれする。葉は丸みがある多くの小葉に分かれ、先は3~5に浅く切れ込む(2~3回の三出複葉)。花は径7~12mm、4枚のがく片の中心部から淡黄色の雄しべが多数(15個内外)とびでている。雄しべは細く長い葯の下に、細長い柄(花糸)がつく。多数の細かい花が、枝分かれした茎の上方に集まって咲く(円錐花序)姿が印象的。

類似種と見分け方

カラマツソウ、エゾカラマツなど、その他多数のカラマツソウ属の種。
アキカラマツの雄しべは細く長い葯の下に、細長い花糸がつくのが特徴で、カラマツソウ、エゾカラマツでは、雄し

べの葯が短く、また花糸は葯の接続部で少し太くなる。カラマツソウ属の葉の形はどれもよく似ており、花の形で見分ける。開花期以外での同定は難しい。



アキカラマツ。
円内は種子



類似種のエゾカラマツ。
円内は種子。柄が短く種子は上を向く



類似種のカラマツソウ。
円内は種子。柄が長く種子は下に垂れる

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

生育環境・分布

日当たりのよい山地や平地の草原、湿地、カシワ林内などに生育する。

分布：国外分布は、千島・樺太・朝鮮・中国（中北部・東北）・モンゴル。

国内分布は、北海道から奄美まで、ほぼ全国。北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりのよい山地～平地の草原や湿原、カシワ林内で普通に見られる。

生活史

開花時期：7～9月中旬

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。



アキカラマツ

興味深い話

■開花前の全草が薬用になるが、有毒成分のアルカロイドを含むため、多量に用いると血圧降下、神経麻痺などが起こる。適量用いると、下痢止め、健胃、解熱、解毒などに効果があるとされる。

■苦味が強く、牛も食べないということからウシイヤグサの別名もある。

■長野県高遠町ではタカトオグサと呼ばれ、茎や葉を煎じて胃腸薬として用いてきたという。



アキカラマツの葉と実

配慮事項

生育している環境全体が重要である

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992

「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「図説 花と樹の大事典」 木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗 柏書房 1996